

11:別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第1回加東市小中一貫教育研究会
開催日時	平成27年6月10日(水) 15時30分から17時00分まで
開催場所	加東市役所 2階 201大会議室
<p>議長の氏名 (委員長 浅野良一)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】 12人</p> <p>浅野良一委員 大野裕己委員 土肥貴雄委員 尾崎高弘委員 木村裕司委員 小林美穂委員 上月浩忠委員 岸本吉博委員 眞海秀成委員 佐々木正利委員 小林喜代治委員 石田和伸委員</p> <p>【欠席委員】 1人</p> <p>黒崎泰則委員</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>大島巧男教育委員長 藤本洋二教育委員長職務代行者 神崎芳美教育委員 浅川るり教育委員</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造 教育部長 堀内千穂 教育総務課 課長 大橋博英 同 副課長 柴崎俊之 同 主幹 山本幸平 学校教育課 課長 登光広 同 副課長 平川真也</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>【議題】</p> <p>(1) 委員長、副委員長の選出について (2) 小中一貫教育研究会報告(案)について (3) 加東市の小中一貫教育について ～これまでの取り組み～ (4) 保護者アンケートの結果について (5) 現状分析について ～アンケート結果より～ (6) 今後の研究内容について</p>	

【会議結果】

- (1) 委員長に浅野良一委員、副委員長に佐々木正利委員を選出しました。
- (2) 資料⑥に基づき、事務局から説明を行いました。
- (3) 資料②、③及び④に基づき、事務局から説明を行いました。
- (4)～(6) 資料⑤に基づき、意見交換を行いました。

【会議の経過】

1 開会

2 教育長挨拶・自己紹介

3 委員長、副委員長の選出について

委員長に浅野委員、副委員長に佐々木委員を選出

4 報告

(1) 小中一貫教育研究会報告（案）について

事務局から資料⑥に基づき、事務局から説明を行いました。質疑なし。

(2) 加東市の小中一貫教育について

～これまでの取り組み～

事務局から資料②、③及び④に基づき、事務局から説明を行いました。

(委員)

この要綱について、設置目的をもうちょっと明確にしたほうがいいのではないかなということを考える。というのは、いろいろ小中一貫教育について、研究、検討していくわけであるが、目的として、一貫教育を導入すべきか否かというようなものを検討していくものなのか、あるいは一貫教育を進めますよと、その中で進める上での具体的な方策、要は、具現化するためのいろんな諸問題を研究するものなのか、こちら大きく分けまして2つが考えられると思うが、どちらなのか、ちょっとはっきりしませんので、お答え願いたい。

(事務局)

設置要綱の件については、4月28日の教育委員会で審議いただいてこういった要綱を作成した。小中一貫教育について、最初、教育長の話にもあったように、市民説明会、あるいは保護者説明会で、もっと保護者、学校、地域の皆さんの意見を取り入れてやってほしいという意見もあったので、研究会を作ろうということになって、今回、小中一貫教育についての研究会を発足させていただいた。そういった御意見を取り入れて、その課題を整理し、取り組むべき具体的な方策を研究・検討するということであるので、これまでいろいろ説明してきた関係で、私どもといたしましては推進

のために研究をしていくというふうには考えている。ただ、いろんな意見はあると思うので、その中の御意見を取り入れて、今後加東市にふさわしいものを研究できたらなという思いである。

(委員)

もう一度、確認しますけども、加東市としては一貫教育を進めるということによろしいんですね。進めるための具体的な具現策をこの会で、研究、検討していくという捉え方でよろしいのでしょうか。

(事務局)

ありきではないという話も、一方でしておりますが、進めたいという思いは、変わりません。ですから、進めたいと、その上で進めるための方策と課題は何なのかということも議論していただくというのが、この会ではないかなというように思っている。

(委員長)

今、委員がおっしゃった黒か白かという感じではなく、進めることを前提に研究をして、そして可否についても進めた研究の結果でもう一回確認をしていくということじゃないんですかね。だから、やるか、やらないかを定めるための研究ではなくて、やる方向で研究をして、そして問題点なんかを出しながらまとめていけばいいのかなというか。ですから、グレーゾーンも少しあるかもしれないですね。

(委員)

グレーゾーンはあるんですか。

(委員長)

よっぽど研究をして、これはだめだと、一貫教育というのは。ということになれば、非になる可能性も無きにもあらずということで、そこの部分が。

(委員)

そうなると、この会の責任というか、非常に大きなものになると思うんですけどね。皆さん、それでよろしいんですかね。そういう大きな責任を負った会合だということも認識して進めないといけないということになるんですけども。

(委員長)

そういった点を意思決定していただくための提言を我々のほうでまとめていくということですね。ですから、ここで決定したことがそのまま教育委員会のしたこととしていくのではなく、非常に有力な参考情報として提言していくということになる。

(委員)

今のこの時期にきてね、やっていくんだという思いで進めていかないと。確かに難しい問題が、進んでいったらいろいろあると思うんですけど、どうなんでしょう。

(事務局)

進めたいという思いの中でこの研究会やっているのは事実です。その部分については、是非御理解をいただきたい。ですから、それぞれ学校、あるいは地域の皆さん、そして保護者の皆さんからいろんな御意見をいただきながら、どういう課題があって、どういう解決の方法があって、こういうことをしていけばよいのでないかという提言も含めていただければありがたいという意味で、この研究会をやっているということだけは御理解をいただきたいと思う。やりたい、推進したいという中でのものです。

(委員)

やりたいというより、もうちょっと精度を上げて、やっていくんだという、そういう思いが聞きたいなど。

(事務局)

その思いは、持っている。進めたいという思いと、やるという思いを持って、提案をさせていただいて、説明もさせてもらった。ただ、いろんな不安もあるという声を聞いたので、今ここで、改めてその辺をもう一度整理したいと、そんな思いである。

(委員長)

何かこの件について、御意見等ある方、御発言いかがでしょうか。

(委員)

私としては、一貫教育を今、事務局が言われたように、進めたいというのではなしに、こういう研究会を設置するので、一貫教育についての研究をするのでちょっと委員になってもらえないかというような形になったんですけども。進めるための研究会というよりも、私のほうの理解としては、進めたらどうかと、まだ、試行錯誤しているというような形で。そしたら、そういう意見を述べて、もうちょっと延ばしてもらえないかとか、時期がどうだとか、そういうふうな研究会かなと思ってきた。今、事務局が言われたように、行く行くはこういうような形になるかも知れませんがね。今、話を聞いていたら、何年後にはもう単クラスになってしまうと、小学校9校中6校が。一つひとつのクラスになってしまうというようなことを聞いたら、そういうところに対しての保護者の不安ですね。やはりたくさんの生徒で寄って切磋琢磨して競争する、または、いろんな対抗をするにしてもクラス対抗とか、そういうのをとれたらどうかということ、そこらは私も賛成なんですけども、時期としては、ちょっとね、まだ今のところ、私、ちょっともやもやしているので、そこらをちょっと言ってみないかと思って来たんですけども。今の話を聞いていると、進めていくんやから意見をくれと言われても、ちょっとそこら抵抗がある。

(委員長)

進めたいということで進めるというか、強く進めたいということですね。ですから、多分、委員がおっしゃる懸案事項、課題というのは、いろいろと発言できて、盛り込むことができると思う。

(委員)

市のほうで計画を出されましたですね。それについて、研究していくんだと。つまり、小中一貫校を作っていくにあたって研究していくと。だから、私はそのつもりで参加させてもらっている。いろんな課題も出てくると思うが、それをクリアするためにどうしたらいいかとか、研究していくという形でいけばと解釈しておるんですけど。だから、進めましょうということで。課題がいろいろ出てくると思うんですね、きっと。でも、いい面もあるんだよと。だから、いい面もできたらそれを取り入れながら、課題についてはどこか先進校をいろいろと研究、視察したり、あるいは情報を取り入れたりしながら、うまくいってるところの例を取り入れながら、少しずつ加東市の方向付けをすればいいかなんかと思ったりしておるんですけども。

(委員)

この小中一貫に対しては、加東市のほうで、例えば教職員でいえば中学校の理科の教員が小学校の専科として入られたり、あるいは管理職の人事交流をされたり、それからそれぞれの研修において小学校の先生と中学校の先生がともに研究を進められたりというふうなことを少なくとも5年ほど前から実施されてきた。そういうふうな経緯をもってすれば、小中一貫教育を進めていくという立場で、この研究会が立ち上

げられているんだろうというふうに考えている。

(委員)

子どもたちのことですから、やはりよい面をさらに、うまくできる方法があるなら進めたいという思いはあるが、先ほど委員さんが言われていたようにグレーな部分は、やはりたくさんあると思う。私、個人の意見にもなるんですけども、やはり国の施策がまだ曖昧な時点ですので、そういうことも踏まえて提案していただけたら、そのもやもやとした部分は解消されるのかなと思いますので、そういう対応をして参加している。ただ、責任ということもおっしゃってましたけども、どれほど私たちが責任を持っていいのかという点についても、確かに不安があるが、できる限りのことはしたいと思っている。

(委員)

アンケートは先般、実施されましたけども、皆さんがどこまで理解されているのか、わかっておられるのかというところは、本当に議論ができていないというのが現状である。2、3の親御さんの話からしましたら子どもたちがしっかり勉強ができて、きちんと先生方に教えていただければそれでいいんだというような、そういう話もあって、そんなに小中一貫教育に対して、大きな流れといいますか、そういうところまで保護者としてはついていけないのかなと。だから、そんな状況の中で、私たちがこういう会に参加したり、研究会をしながら保護者の方に理解をしていただいて、不安なく、新しい制度で、学校制度でやっていくなれば、うまくいくような情報提供なり、議論ができればなあというようなことで参加させてもらっているつもりです。

あとは実際、地域の中で話をしていたときに、本当に地域の方々が子どもたちの現状を知っていらっしゃるのか、いらっしゃらないのかというところはちょっと疑問がある。実際、子ども持つ親として、実際は、こうじゃないのになあというようなことも現実あり、そういう子どもたちの学校での状況、地域の状況ということも、やはりこういう場を通じて私たちも伝えていかなければいけないとか、あとは地域でも地域の方々に伝えていかなければいけないと、そういうような感じで思っている。

(委員)

学校関係者と地域の者の間に、ちょっと参加に当たって考え方が違うという感じがした。私も小中一貫教育を進めるということは、昨年の12月の発表で初めて知ったし、学校とか教育委員会関係では前からそういうのを進めておられたと思うが、それがなかなか地域まで伝わってきておりませんでしたので、急な話という感じがした。ですから、今回の研究会についても地域の思っていることを少しでも反映できたらということで参加をするということになっていると思っているのですが。

先進校の取組みをいろいろ見ておりましたら、かなり地域を巻き込んだ小中一貫教育を進めておられるところもある。加東市が一体そこまで考えておられるのか、その辺のこともちょっと聞きたいなと、そういうふうに思う。

(事務局)

先ほど申されましたように、そして、また、教育長の冒頭のご挨拶でも申し上げましたように地域のご理解無くして、学校の経営というのはできないというふうに思っており、今後、ますます地域の方の御意見を取り入れていくということは非常に重要なことだと思っておりますので、そういう方向で進めていきたいというふうに思う。

(委員長)

今、御意見いただきましたけども、基本的にはいくつか皆さんで合意できる事項があるのかなと思う。

ひとつは、小中一貫教育を実施するという前提で、強い希望のもとにですね、この

研究会を進めていくんだということです。

ただ、今、何点か懸案が出てまいりましたが、小中一貫については、やはり情報が、学校関係者とあるいは地域、保護者と若干、こう温度差あるわけです。したがって、そういった温度差、あるいは疑問、あるいは課題、そういったものをなるべく明らかに皆さんにお伝えできるような形で、研究会としてはそのあたりを見える化していくと、そういったところです。

やはりそういった見える化をする中身としては、小中一貫の長所と短所です。そして、地域の人にそれを出して行って、その情報をどこまでお伝えできるかというところについての工夫をこの研究会でやりながら、皆さんになるべく多くの情報をお伝えしていきたいということでしょうかね。

そして、最後はそういったことを踏まえて、どういうふうな方法がいいかということをも具体的ないろんな研究をもとに中間報告の提言をし、最後に、まとめていくということです。

(委員)

9月に中間報告をまとめて、年度末に最終報告をする、まとめる予定ということですが、一貫教育を進める上において、そういうスケジュールで問題はないのでしょうか。建物を建てるとか、いろいろ問題もありますので、あまりズルズルといくと、そういうものが間に合わなくなるということも懸念されるわけですが、その辺は大丈夫なんでしょうか。

(事務局)

3月には最終の報告を出していただきたいことというふうなことを申しておりますので、それであれば十分可能だというふうに思っている。

(委員)

来年の3月で間に合うんですね。

(事務局)

9月なり、秋口の中間報告の時点で、ある程度の方向性は出していただけののかなという思いと、3月の最終報告の段階では、その中で出てきた課題とか留意事項とか、その辺も整理して最終報告をいただきたいというふうに思っておりますので、そういった意味合いであれば大丈夫というふうに思う。

(委員長)

一番肝心なところなので、御意見いただきまして、どうもありがとうございました。

それでは、先ほどご説明いただいた小中一貫の推進にあたってのこれまでの流れと、そして加東市を取り巻く、学校をはじめとした環境、そういうところについての御質問、御意見ございますか。

それでは、併せてアンケートの話も出てきましたので、アンケートについて報告があるようになっていきますのでそちらをもとに、その後で御意見をいただきたいと思えます。

(3) 保護者アンケートの結果について

事務局から資料⑤に基づき、事務局から説明を行いました。

5 協 議

(1) 現状分析について

～アンケート結果より～

(2) 今後の研究内容について

(委員長)

確認ですが、教科担任制というのは社と滝野の2つだけでやっているのですか。

(事務局)

社小学校と滝野東小学校で実施をしている。

(委員)

保護者アンケートをとっておられるのですけども、参観日、PTA総会においてとられたということで、たぶん参加された親御さんに渡されて、記入して回収されたんじゃないかと思うが、その結果、回答率が56%ということで半分強なんですね。もっと全員に、少なくとも全員に配布して7割から8割くらいの回答を得るという手はなかったかなと思うが、いかがですか。

(事務局)

PTA総会、参観日で配布をお願いしたということですが、学校によってはかなりの回収率のところもありますし、やはりちょっと開きがあったのも事実である。ただ、そういった8割とか9割とかいうふうなことは、理想としていいとは思いますが、アンケートの信頼性といえますか、その点からすれば56%ということであれば統計的には傾向がつかめるのではないかなというふうに思いますので、今回に関しては、学校としては非常に頑張っていたんですけども、どうしても回収できなかった部分もあるので、ご理解いただけたらというふうに思う。

(委員)

初めから全保護者に配るということは考えられなかったんですか。

(事務局)

そうですね。一旦、持って帰っていただいて、回収するということになるのと、また、回収率も非常に悪くなる可能性もあるので、一番保護者が来られる参観日、そこに焦点を当てて実施したということですが、今回につきましては全員に配ってということじゃなしに、参観日、PTAの総会の日もありましたので、そこで集中的に行ったということである。

(委員)

アンケートの結果で、わからないという方が非常に多いのが気になるんですけども。資料③のこれまでの経緯、取組経過を見てみると、それぞれの小学校で保護者説明会というのは1回ずつなんですよね。ですから、これについては、やはり教育委員会のそういう動きが非常に鈍かったんじゃないかなという感じを私思ってるんですけども。これから、こういう保護者に対して、そういういろんな説明会というのを、かなりの頻度をもってやってほしいと思う。それで、この研究会で提言するということが終わってからであったら、また、遅くなるので、この結果を見たら、すぐ動くべきだと思うんですよね。そういうことをぜひやってください。提言、中間報告、9月になりますからね、9月まで何もせんのかいという話になりますんで、もう明日からでもですね、どうやってそういうものを、説明会をやっていこうかという動きをして

ほしいと思う。

(委員)

住んでいて感じるのもアンケート結果と同じかなと。私がある地域に暮らしておる中で、このアンケートが実施されたときにこういう状況になるんじゃないかなと、私の想定と同じとなったなど、こういう感想を持っている。やはり親としては、不安がありました。地域を見てみたときに、どんどん、減っていった。地域に住んでいない状況の中で、子どもが小学校へ行くことは考えられないというのは、消防とか、地域活動をしていたらわかるわけで、そうなってきたときに、やはりたいへんだなあと思う。そんな中で、地域の会話としましても、親御さんの中では兵教大附属小学校もありやなど。そんなことも日常的に会話されて、そんな課題もあったような地域で、現状はこんな感じかなという感じですよ。

(委員)

幼稚園の保護者の方が切実に不安に思われているんだなあということを感じた。今現在、小学校、中学校に来られているところは、考えてみても、あと何年か後なので、私たちが子どもがいるときはないけれど、やっぱり幼稚園の子どもさん持たれているところに関しては、もう今から考えておかないと不安なんだなあということを感じた。子どもたちにとって、どういう教育をしていくことがいいのかということを考えていくことが私は大事かなと思うので、小中一貫を進めていくということに関しても、やっぱり課題はたくさんあると思うので、そこをやっぱりクリアにしていきながら子どもたちにとって一番よい教育はどんな教育なのかということを考えていけるかなあということを感じた。

(委員)

小中一貫という形になったとき、ここまでわからないという回答が多い中で、保護者の方も迷われている部分もたくさんあって、その意見が直接教師にほうに疑問が投げかけられてくるんだらうなど。そういう形になってきたときに教師も連携を取りながら、どういう形でやっていこうと思っているんだという部分の意見を持っていかないと保護者に対して説明責任が果たせないのではと思う。

(委員)

わからないというものが今出ていますけど、非常に多いということで、皆さん方、お若い、お子さんをお持ちの方が、こういう若い世代の方々、お母さんとかお父さんですね、保護者の方たちの御意見を聞いていると、わからないという意見というのは、どうなんというような感じがしますね。私個人としては、その中で、もっともっと説明をして、そのわからない方たちに、こういうふうな一貫教育は、こういうふうにしていくんだと、こういうふうな特徴があって、こういうふうな、またええところもある、というようなことをもっともっと説明する機会を多くして、先ほども出ていたように半分ぐらいじゃなしに、8割ぐらいの方のアンケートというのをとって、そういう住民の方たちの希望、望みですね、そういう思いを大事にしながらこの教育を、一貫教育を進めていきたいなど、私個人としては思う。

(委員)

皆さん方おっしゃってますこと、私も同じように思っていた。わからないということでアンケート結果出るとるんですけども、どの辺までわかって、あと、どの辺までわからないかと、その辺もちょっと知りたいなあという部分があった。だから説明をする機会がもう少し必要かなあと思ったりもする。

(委員)

先ほど事務局のほうから説明会で何年度に配置計画がというふうなことが言われたということでした。例えば、東条地区では33年、社では36年、滝野では40年というふうなことを言われたことを少し反映しているのかなというふうに私は思った。というのも、例えば滝野中学校ということ言えば、滝野地区は6年先、今現在では5年先ということになるが、児童・生徒の減少率は他地区に比べて非常に少ないというふうなことからすれば「現状」が一番多くなっているが、そういうふうなことにもなるのかなと思うし、あるいは東条地区では、配置で言えば、一番最初に小中一貫教育というふうなことが出されているということでは、「そう思う」「そう思わない」「わからない」というのが約3分の1ずつというふうなことで、非常に身近な問題として捉えたらどうなのかなということを反映しているのかなと思う。東条地区で「同時期」というのが極めて高いというのは、自分とは先というふうに言われんただけで、やっぱり同時期にさせていただくほうが不安感も少ないのかなというふうなこともみてとれるのかなと、一方向からですけれども。「わからない」という方が多いのは不十分だと思われますけれども、説明会の成果もある程度反映されているのかなというふうに私は思う。

(委員)

教職員の仕事は子どもを育むことと、やはり保護者対応というのが非常に占める割合が高いですから、保護者の理解なしで教育は成り立たないという意味から、全地域の学校で「そう思わない」が40%もある中で、実施ははたしてできるのかというのが、私たちが小中一貫教育に関して、問われることになってしまってもやはり難しい点もあるので、もっと説明会という案はありましたけど、それだけでいいみたいなのではなくて、どうなのかという思いもあるのですが、いずれにしてもこの数値のままでは実施ができないというのが正直な意見です。

(委員)

今まで出ていなかった意見を言うと、例えば専科については「わからない」が減っているということなんかを見ていくと、実際には質問の中で答えやすい質問と答えにくい質問というのがあって、それがあらわれているのかなと。具体的なことになってくると、教科担任制、これ文面見てみると、それはやはりわかりやすい。6とか7は説明会に行かれていても、なお抽象度が高かったり、それから7番目は、やはり説明会の情報がないと少し判断がしづらいという部分があると思うので、そういったものが出てくるのかなというふうに思われる。そういうことで言うと、説明をどれだけ尽くしていくかというところで、はたしてどうかということも見ていく必要もあるのかなあというふうに思う。その情報の説明の仕方もある程度、この研究会でメリット・デメリットが進んだ加東市の情報として伝えていくことも大切でしょうし、また、それ以外に小中一貫の一般というところでも説明を尽くしていく必要があるかと思う。両方を考えた説明が必要になると思う。

(委員長)

皆さん、おっしゃるように、やっぱり「わからない」というのが、非常に比率が高いわけで、地域の方も、保護者の方も、そして我々もそんなに知ってるわけじゃないわけですね。ですから「わからない」という部分をかなり皆も抱えているということだと思ふ。ですから、先ほどから出ております意見の中で、地域や保護者の方に説明するにしても、わからないものがわからない人にしても、いい説明になりませんので、やっぱり小中一貫について、まさにその研究会だと思ふんでね。いい説明をしていく、具体的なことを提供して、これはどうなのかということであれば、ある程度わかった上での意見もお持ちいただけるようだと思う。ですから、やっぱり大急ぎで小

中一貫の研究をしてくるんですが、中教審の答申が26年の12月に出ておりますが、それで、通り一遍のメリット等が出てくるわけですね。それをやっぱり我々、実地にこの研究会のメンバーが見に行き、それを確認してくる。あるいは課題があると思われる点については、行った先の学校に聞いて、まさに現状を掴む。そして、それを包み隠さず、見える化して、市民の皆様、保護者や地域に出していく、そういう役割も我々重要な役割かなと思う。ですから、そういう意味で、提言まで待たずして、どういうふうな研究をしていくかという、その研究のプロセス、途中の情報を出していきながら、説明会に代えていくというような、そういう取組みにしたほうがいいんじゃないのかなという気がしますね。だから、我々の持っている情報の中で、ああだ、こうだ言っても、これ以上前に進みませんので。ちょっと情報を仕入れるというか、それを考えたかどうかと思う。一番わかりやすい仕入れるっていうことは、ホットな情報を仕入れることが必要ですので、私は視察だと思う。見に行き、実際に向こうの学長さんに、こちらからお願いして、包み隠さず、いろいろと情報をいただくということだと思う。そのあたり、どうでしょうね。本を読んで勉強するっていうのは、本は大体、昔の話は出てますけどもね、やっぱり今の話は、今行かないと見れないと思う。ですから視察っていうことについて、至急、これ進めないと、学校が休みになっちゃうと子どもが見れませんからね。ですから、夏休み前に行く必要がありますので、これ急ぎたいなという気がするんですけども、そのあたりいかがでしょうね。見に行ってみるとということについては。

(委員)

結構ですが、この6月20日に市の連合PTAのほうで、香川県の高松第一学園という、平成22年か23年から実践されている小中一貫校の校長先生と、PTAの現会長さんと前年度の小学校のほうの会長さんに来ていただきまして、講演していただく予定にしている。

(委員長)

それもひとつ有用な情報かなと思う。

我々、よくいろいろ視察行ったりするが、何聞きたいかとか、何を調べたいかというのを明確にしていかないと、ただの物見遊山になってしまうので、視察なり、情報を得るといえることは、非常に重要なことなんですけども、視察、こちらからアクション、ある程度聞きたいことができる場合は、なるべく何を聞きたいかを情報化して行って、なるべく時間を有効に使うというのは必要だなと思う。

それは、PTAが主催して。

(委員)

加東市の連合PTAで。

(委員長)

それも有力な情報かなと思う。今、まさに保護者の皆さんの知りたい一環のあらわれというか。うちの研究会も、もちろんその講演会、見に行き、聞いてみたいんですけども。

それで、いくつか候補校をあげて、先方に率直にお答えいただくような声かけをしたいと思う。先ほども言ったように7月の中旬以降になると夏休みモードに入って、子どもが教室で見れませんので、7月の頭ぐらいまでにはどこか行きたいなと、今お話を聞いて思うんですけども。よろしいですかね。

どこか気の利いたところっていうのは変な言い方ですけども、ないですか。要するに、参考になりそうところですね。皆さんが行って参考になりそうところ。しか

も、いろいろ工夫をされて、いろんな課題を解決しながらやっておられる、ただ流れにまかせてやっておられるんじゃない。その辺、ひとつ、ふたつ、もし、あげれるのであれば聞かせてください。

(委員)

先ほどPTAのほうでも研修会をされるということで、非常にいい取組みなさってるなと思うのと、それから視察については非常に賛成という方針です。

高松の方ということなので、別の方から考えた方がいいんだろうなと考えて、さらに少し私たちが条件として、行きやすいという地理的な範囲内で考えた方がいいんだろうという、そういう気の利かし方になるのかなと。そして、さらに今までのお話を聞いていくと、いろんな苦労というところでも参考になるようなお話を聞いていけばいいのかなと。そういったことを諸々考えると、今頭の中に浮かんできたのは、近くということを考える。そうすると大阪府で堺市のさつき野小学校、中学校というところがひとつ考えられるかなと思いつきました。堺市というのが出てきたんで、政令市じゃないか、加東市と違うじゃないかという気持ちもあるかと思えますし、それは正直拭えませんが、さつき野小学校、中学校は、堺市が政令市になったときに統合した旧美原町ですね、一緒になった。ですので、その地域のサイズというか、状況は加東市とそれなりに近いところがあるのかなというふうな、そういう見立てです。さらに堺市の中でも最初に小中一貫、堺市は小中一貫を頑張っているんですが、その中でも最初に小中一貫から進んできたということもあるので、その取組みの経緯というところで、いろんな課題を整理したり、より良くしていく方策を考える教育、今まさにここで話し合った内容は一定程度持っているんじゃないのかというふうな、そういう意識で、まず1案として、さつき野小学校、中学校という堺市美原区の例をあげたいと思った。

もうひとつ、地理的な範囲内で、あがってくるかなと思ったのは箕面市立の止々呂美小学校、中学校。こちらのほうは、大阪府下の中でも早くから統合に向けた取組みをして、経緯をもってやられたところで、新興住宅地というところでの取組みというところでは考える必要がある。ただ、そういった経緯ですね、かなり時間をかけて取組みをだんだんと積み上げてやっておられたので、時間的には加東市がお考えになっている時間軸とそぐうところがあるかなと、そういう意識で考えた。

どちらも車で行きまして、1時間から1時間半の間ぐらいではなんとか着くかなと。そういうところで、いろんな課題を整理したりする中で、先陣を切ってやってきたご苦労を聞いていくということの、そういうところでの気の利かし方でこの事例を2つ取り上げたということになる。ちなみに堺市のほうのさつき野については、道路を挟んで小学校と中学校がある併設に近い形であるところ。一体型です。止々呂美も一体型です。道路を挟んでありますが、連絡橋で挟んでいるというのがさつき野です。ある種の併設プラスアルファみたいなのところがあるかなと思う。

(委員長)

はい、ありがとうございます。今、気の利いたいいところをご紹介いただいたわけですが、皆さん方どうでしょう。行ってみませんか。これから保護者からの問い合わせなんかもありますので。お仕事たいへんだと思うんですが。

それで、どうなんでしょう、視察に行く、その経費や案を委員会のほうで何かバックアップしていただけるんでしょうか。

(事務局)

視察に関しましては、やはりこの研究会の重要なことだと思っている。私どもも十分対応できるように段取りしておりますので、それは大丈夫です。

(委員長)

それでね、これについて、皆さん、これを聞きたいというのはね、是非出していただきたいんですよ。これを知りたい、これを聞きたいというのは。

(委員)

それは会議終わったら、報告するような格好でもよろしいんじゃないんですか。こういうものを聞きたいんだけどというようなことで。家帰って、一旦。

(委員長)

それでは時間も迫っておりますので、宿題といいますかね、視察行ってこれを聞きたいというのは、なんでも結構ですからお出しいただけますかね。様式を、至急作っていただいて。

(事務局)

連絡先、様式等、また近々に送らせてもらいます。

先ほど、委員長も言われてましたように、行く場合でしたら、学校側の段取りいうのもありますので、その日程等もあります。また、言われてますように、夏休みに入ったら意味がありませんので、今からの段取りもありますので、日付等とか場所、今、委員に提案してもらいましたところ、早速あたってみます。それによります日取りで、私どもに一任してもらえればと思う。それで、わかりましたら御連絡させよう、委員の皆さんにご連絡させよう。あと、着目点、意見等の部分は、報告できるような御案内もさせようというような扱いでよろしいですか。

(委員長)

それでは、今事務局から言われたように、日程とか先方に提出する必要がありますので、至急皆さん方と事務局やり取りしていただいて、出していただくということでお願いします。

それでは、時間もきておりますので、視察といったことですね、研究を進めていくというところが決まりましたので、今日の第1回目の協議はここまでにいたしまして、進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

6 連絡事項

7 閉 会

【資料名】

資料① 小中一貫教育研究会委員名簿

資料② 加東市小中一貫教育研究会設置要綱

資料③ 加東市小中一貫教育に関するこれまでの経緯

資料④ 小中一貫教育の推進について

～未来ある子どもたちのために～

資料⑤ これからの加東市の学校教育のあり方（小中一貫教育）に関するアンケート結果

資料⑥ 小中一貫教育研究会 研究報告書骨子

平成27年7月30日